

日本文幼年の一本の

□倉橋惣三先生監修

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い噺とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雜誌です。殊に毎號教育的な手技附録を添えます。

本誌は、玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となり。

定價

壹册拾二錢 □半年 郵税共七拾五錢
 郵税壹錢 □壹年 同壹圓四拾四錢

御大典記念畫報
 皇族畫報
 婦人畫報
 少女畫報
 日本幼年報

發行所

東京京橋鍛冶橋外
 振九〇替東京四〇

東京社

初めて入園した幼児に平易で適切な一

大正六年第一考案

花とり競争

定價金二圓五十錢

遊方

松竹梅、櫻、菊楓の形を(板にて)八寸の大きに切抜き、特有の色を以て彩色したるものを遊嬉室に配つて置いて一方で先生が大な、獨樂(六角に削つて右の六)を廻し止た時に現れた(櫻が現はしてあります)櫻が現れば櫻處へ速かに行た方が一番といふのであります、その間幼児は、互に梅とか櫻とか、好むところを唱へつゝ待て居るのであります、

教育的價值

沈着と敏捷、獨樂の止る瞬間には最も沈着にして正しく出たものを視分なくてはなりません、視分が付たなれば、最も敏捷に目的の處へ間違ぬ様に行かなくてはなりません、此處で視覺の練習にもなり同時に植物の名稱を覺る事が出来ます

東京九段

電話番町二九〇九
振替東京一九六四〇

フレイベル館

最も嗜好多き運動器具

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回一日發行)
婦人七子ども 第十七卷第五號 大正六年五月一日發行
大正六年五月一日發行

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場